

村上市DX本部会議
—2023年度の総括と次年度に向けて—

2024年2月8日
株式会社コパイロット 米山知宏

1/30に実施した
推進員向け研修でのふりかえり

良かった点

- ログチャットによるコミュニケーション
 - 「LOGOチャットを活用し、支所とのやりとりが効率的になった」
 - 「Logoチャットの導入で、室内の情報共有が席にいない時でも行われるようになって、伝達のし忘れがなくなった」
- AI議事録
 - 「AI議事録の活用で、議事録の作成が簡単かつ早くなった」
- 変革への歩み
 - 「自身が担当している業務で電子化・効率化が進められそうなことを洗い出すことができた」
 - 「村上市DXを深く考えるきっかけとなった」

改善していけると良い点

- 日々の業務の忙しさによって後回しに
 - 「日常業務が優先されるので取り組む時間が取れなかった」
- 話し合いの時間の不足
 - 「課で話し合える時間を取れたらよかった」
- 課をまたいだ情報共有（事例やナレッジの共有）
 - 「他課の優良事例を紹介してほしい」
- 推進員の業務負担
 - 「推進員の負担が大きい。課内共有は推進員だけでは難しい」

2023年度の総括

様々なトライを行いながら、着実に推進していただいている

1. 日々の業務が非常に忙しい中、様々な取り組みを推進頂いていることに感謝申し上げます
2. 「まずは試してみよう」という文化が共有されてきていることも大変素晴らしいことだと感じています（LOGOチャット、AI議事録、マサル君など）
3. 本日の資料にもあるように、数値やグラフで、現在地と今後目指す状態を示していることも非常に大切なこと
4. 何より、現場の職員のみなさんから、「DXを通じて、もっと良い村上・市役所にしていきたい」という強い意思を感じています

次年度に向けて

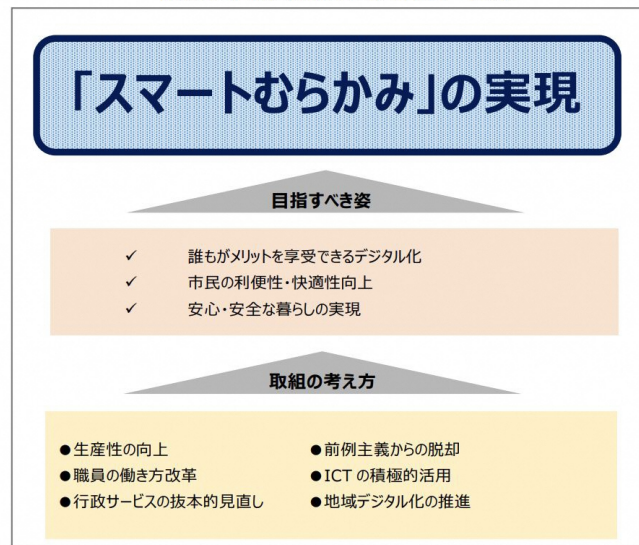
実現したい成果を問い続ける

- DXや組織変革で重要なのは、一度実施して終わりではなく、より本質的なゴールに向けて、取り組みをアップデートし続けること
- その際に大事になるのが、「実現したい成果は何か」ということを問い続けること
- 電子申請にしても、LOGOチャットにしても、最終的にどのような状態を実現したいのかということを考え、そこに向かい続ける
 - 市民のみなさんのためのサービスになっているか
 - 職員のみなさんが仕事をしやすい業務・仕組みになっているか

そのためにも、目指すべきビジョンを常に共有しながら進める

- 「スマートむらかみ」とは具体的にどのような状態か？
- 今後議論を継続していきながら、「スマートむらかみ」が目指すイメージを具体化し、納得感を持って進めていけるようにしたい

【図表2.2-1 村上市DX推進により目指すべき姿】



各課内でコマ目な対話を

- DXを推進員や特定の職員さんだけで推進するのは難しい
 - 困りごとや悩んでいることの共有でも良いので、まずは現状について対話をするような時間が大事
 - 負担を少しでも軽減するために、相談しあえる場を
- たとえば、一ヶ月に一度で30分程度で良いので、各課内でDXについての現状や困り事を共有するような時間を持っていたけるとよいかと考えています
 - このような対話が、意識差をなくし、DXを実現していく第一歩